

令和4年度 第2回広島市感染症対策協議会

【日 時】 令和4年5月16日（月）19:00～20:00
【場 所】 広島市役所 14階第7会議室
【出席者】 小林 正夫、坂口 剛正、石川 暢久、吉岡 宏治、高橋 宏明、佐藤 貴、
増田 裕久、梶梅 輝之、南 心司

1 感染症に関する最近の情報

（1）新型コロナウイルスワクチン接種について（資料1 P1～10）

ア 接種率

本市における新型コロナウイルスワクチン接種状況は、5月13日時点で1回目の接種率が76.5%、2回目の接種率が75.8%、3回目の接種率が51.5%であった。また、5歳～11歳の子ども（小児）への接種については、1回目が10.9%、2回目が6.9%となった。

イ 4回目接種について

⑦ 概要

令和4年4月27日に行われた厚生労働省の厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会における審議の結果、新型コロナウイルス感染症にかかった場合の重症化予防を目的として、3回目の接種から5か月以上経過した①60歳以上の者及び②基礎疾患を有する者その他重症化リスクが高いと医師が認める者に対し、3回目接種から少なくとも5か月以上空けて4回目の接種を行うことについて妥当との見解が示された。また、これを受けて、4月28日付けの国の事務連絡において、4回目接種の体制の確保に係る指示があった。

今後、令和4年5月末頃に政省令等の改正が行われる見込みである。

⑧ 接種体制

現在検討中

⑨ 接種券の送付方法、時期

現在検討中

ウ 接種間隔について

令和4年4月25日に行われた厚生労働省の薬事・食品衛生審議会医薬品第二部会における審議の結果、ファイザー社製ワクチン及び武田/モデルナ社製ワクチンについて、有効性及び安全性を踏まえ、接種間隔を6か月から5か月に変更することについて妥当との見解が示された。また、同4月27日に行われた厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会における審議の結果、これらのワクチンを用いた新型コロナウイルス感染症に係る予防接種の初回接種完了からの接種間隔を「5か月以上」とすることについて妥当との見解が示された。

これらの結果を踏まえ、今後、5月末ごろに省令の改正が行われる見込みである。

（委員意見）

- ・ 引き続きワクチン接種を進めてほしい。

（2）新型コロナウイルス感染症に係る対応等について（資料1 P11～18）

全国の新規感染者数の動向について、直近の1週間(5/4～5/10)では減少しているが、GWによる

検査や診療への影響もあることに加え、GWにおける人の動きや BA.2 系統への置き換わりなどもあり、今後の動きに注意が必要な状況である。

本市の感染状況については増加しており、5 月 13 日発表の新規感染者数は 752 人となっている。

変異株について、県立総合技術研究所保健環境センター及び広島市衛生研究所でゲノム解析した結果、県内全域で BA.2 系統が確認されるなど、置き換わりが進んでいる。

(委員意見)

- ・ 市民に対して引き続き感染予防策等の啓発を行い、今後の発生動向も注視していく必要がある。

(3) 欧州及び米国における小児の原因不明の急性肝炎の発生について (資料 1 P19~37)

令和 4 年 4 月 15 日、世界保健機関 (WHO) は、令和 4 年 1 月以降、英国において 10 歳未満の小児の原因不明の急性肝炎事例の発生を報告した。欧州疾病予防管理センター (ECDC) によると、令和 4 年 5 月 11 日時点で 27 カ国において約 450 例の報告が挙げられている。アデノウイルスが今回の急性肝炎事例に関連している可能性も疑われているが、現在さらなる調査が実施中である。

令和 4 年 4 月 27 日付で厚生労働省結核感染症課より、本件に関する感染症サーベイランス及び積極的疫学調査の取扱いについての事務連絡が発出された (5 月 13 日付で一部改正)。原因不明の肝炎を呈する入院例で、暫定症例定義に該当する症例を認めた場合は、最寄りの保健所への相談 (疑似症定点医療機関においては届出)、検査の実施及び検体提供に協力すること等が示されており、広島県から、疑似症定点医療機関、広島県医師会及び広島県病院協会に通知を発出している。

国内においては、5 月 13 日までの報告で、暫定症例定義の「可能性例」に該当する症例は 12 件となっている。

<参考：暫定症例定義>

2021 年 10 月 1 日以降に診断された原因不明の肝炎を呈する入院例のうち、以下の①、②、③のいずれかを満たすもの：

- ① 確定例 現時点ではなし。
- ② 可能性例 アスパラギン酸トランスアミナーゼ (AST) 又はアラニントランスアミナーゼ (ALT) が 500 IU/L を超える急性肝炎を呈した 16 歳以下の小児のうち A 型～E 型肝炎ウイルスの関与が否定されている者。
- ③ 疫学的関連例 ②の濃厚接触者である任意の年齢の急性肝炎を呈する者のうち、A 型～E 型肝炎ウイルスの関与が否定されている者。

(委員意見)

- ・ 患者が増えないことを願いつつ、発生時には適切に対応してほしい。

2 4 月の定点把握対象感染症発生状況《公開》(資料 2、3)

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

3 全数把握対象感染症の発生状況《公開》

区分	病 名	令和4年4月分	令和4年5月分
		報告日 4/4～5/1	報告日 5/2～5/11 現在
2類	結核	1 人 (結核 1 人)	
4類	レジオネラ症	3 人 (4/18、4/19、4/25)	1 人 (5/6)
5類	ウイルス性肝炎	1 人 (4/19)	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3 人 (4/11、4/16、4/27)	
	後天性免疫不全症候群		1 人 (5/9)
	侵襲性肺炎球菌感染症	1 人 (4/19)	
	水痘 (入院例に限る)	1 人 (4/20)	
	梅毒	32 人 (4/4、4/6、4/7、4/8、4/11(5 人)、4/12(2 人)、4/14、4/15(4 人)、4/18、4/19(4 人)、4/22(2 人)、4/25(5 人)、4/26、4/27、4/28(2 人))	4 人 (5/2(2 人)、5/10、5/11)
新型 インフル	新型コロナウイルス感染症	13,035 人	5,080 人

() は届出日

4 その他《公開》

次回開催予定日 令和4年7月19日(火) 14階第7会議室

【資料】

資料1：最近の感染症情報

資料2：4月の感染症の概要

資料3：定点把握五類感染症(月報対象)の長期的変動

広島市感染症対策協議会コメント（5月分）

令和4年5月16日

1 患者情報

(1) 概要

定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、4月は609人で、前月比1.32とやや増加した。

手足口病は大きく増加、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎はやや増加、突発性発しんはほぼ横ばいであった。

(2) 特記事項

- 新型コロナウイルス感染症の感染者数は第15週（4月11日～17日）までの増加傾向は止まったものの、依然として昨年夏のピークよりもかなり多い状況が続いている（図1）。これまで人の往来が増加する年中行事や大型連休の後に感染が拡大しており、今後の発生動向に注意が必要である。

マスクの正しい着用、手洗い、ゼロ密、換気などの基本的な対策に加えて、出勤者の削減、体調不良時は登校や出勤を控えて受診するなど感染防止対策の徹底が重要である。また、重症化予防・発症予防の観点から、ワクチンの3回目接種も効果的である。

- 梅毒の今年の累計報告数は5月8日時点で89件となり、感染症法施行後の年間最多件数105件を記録した2018年、2021年と比較しても非常に速いペースで報告されている（図2）。梅毒は治療せずに放置すると、時に無症状になりながら進行し、長期間の経過で脳や心臓などに重大な病変を起こすことがある。感染が疑われる場合は早期に医療機関を受診し、パートナーなど周囲で感染の可能性がある人も検査を受け、治療を行うことが大切である。

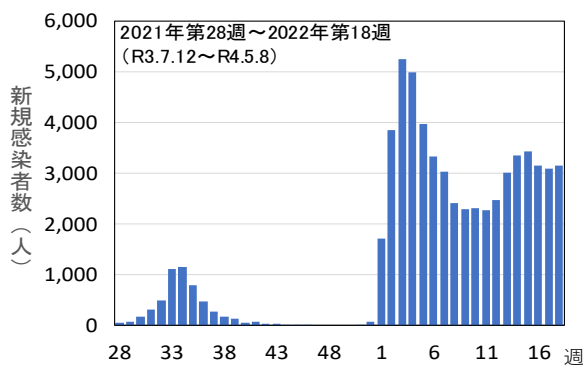


図1 新型コロナウイルス感染症新規感染者数の推移（広島市）

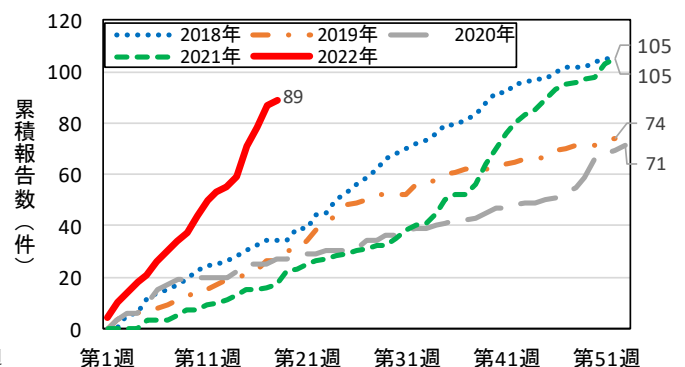


図2 梅毒の年間報告数の推移（広島市）

- 乳幼児を中心に夏季に流行する感染症である手足口病が4月中旬から増加傾向となり、第17週(4月25～5月1日)に定点当たり1.33人の報告があった。回復して症状がなくなった後も2～4週間程度、便にウイルスが排出されるため、手洗いの励行、排泄物の適切な処理など感染予防対策を続ける必要がある。

(3) 4月の1類～5類感染症（全数報告）患者発生数

1類感染症：なし

2類感染症：結核1件（患者：1件、潜在性結核：0件）

3類感染症：なし

4類感染症：レジオネラ症 3件

5類感染症：ウイルス性肝炎 1件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 3件、
侵襲性肺炎球菌感染症 1件、水痘（入院例に限る） 1件、梅毒 32件

新型コロナウイルス感染症 13,035件

(4) 今後の流行予測

手足口病・・・【流行始まり】

梅毒・・・【増加傾向】発生動向に注意が必要である。

新型コロナウイルス感染症・・・【流行中】発生動向に注意が必要である。

2 検査情報

4月の検査結果判明分

臨床診断名	検出病原体	検体採取年月	患者数
感染性胃腸炎	サポウイルス	2022 年 1 月	1 人
	ノロウイルス GⅡ	2022 年 1 月	1 人
手足口病	エンテロウイルス	2021 年 12 月	1 人
	コクサッキーウイルス A6 型	2022 年 2 月	1 人
ヘルパンギーナ	コクサッキーウイルス A6 型	2021 年 12 月	1 人
流行性角結膜炎	アデノウイルス 37 型	2022 年 2 月	1 人
無菌性髄膜炎	ムンプスウイルス	2022 年 2 月	1 人
その他の呼吸器疾患（扁桃炎）	*エンテロウイルス	2021 年 12 月	1 人
	*ヒトボカウイルス		
	*ライノウイルス		
その他の消化器疾患（その他）	カンピロバクター・ジェジュニ	2022 年 2 月	1 人
その他の神経系疾患 （ギランバレー症候群）	EB ウイルス	2022 年 3 月	1 人
その他の発疹性疾患（発疹症）	EB ウイルス	2022 年 1 月	1 人
その他の疾患（不明熱）	コクサッキーウイルス A6 型	2021 年 12 月	1 人

*：複数病原体検出例

12 人の患者から 9 種類のウイルス 13 株、1 種類の細菌 1 株が検出された。検出ウイルスの内訳は、コクサッキーウイルス A6 型 3 株、エンテロウイルス及び EB ウイルス各 2 株、サポウイルス、ノロウイルス GⅡ、アデノウイルス 37 型、ムンプスウイルス、ヒトボカウイルス及びライノウイルス各 1 株であった。検出細菌の内訳は、カンピロバクター・ジェジュニ 1 株であった。

5類感染症定点情報
(令和4年4月解析分)

1. 週報対象(第14週～第17週)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測	No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	インフルエンザ		—	—		10	流行性耳下腺炎		2	0.08	
2	咽頭結膜熱		18	0.75		11	RSウイルス感染症		15	0.63	
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗	23	0.95		12	急性出血性結膜炎		1	0.13	
4	感染性胃腸炎	↗	372	15.50		13	流行性角結膜炎		5	0.63	
5	水痘		10	0.43		14	細菌性髄膜炎		—	—	
6	手足口病	↑	100	4.17	流	15	無菌性髄膜炎		—	—	
7	伝染性紅斑		2	0.08		16	マイコプラズマ肺炎		1	0.14	
8	突発性発しん	→	28	1.18		17	クラミジア肺炎		—	—	
9	ヘルパンギーナ		12	0.50		18	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		—	—	

2. 月報対象(4月)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症	↘	27	3.00
2	性器ヘルペスウイルス感染症	↗	15	1.67
3	尖圭コンジローマ	↗	16	1.78
4	淋菌感染症	↘	14	1.56
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	↗	20	2.86
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		—	—
7	薬剤耐性緑膿菌感染症		—	—

発生記号

前月と比較しておおむね1:2以上の増減	↑	↓
前月と比較しておおむね1:1.5～2の増減	↗	↘
前月と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減	→	←
ほぼ横ばい(発生件数少数のものを含む)	→	

予測記号

流行始まり	流
流行中	流
流行終息傾向	流
終息	終

全数把握感染症報告数(令和4年4月分)

第14週～第17週(4月4日～5月1日)報告分

類型	疾患名	広島市		全 国	
		報告数	累積	報告数	累積
一類	1 エボラ出血熱	-	-	-	-
	2 クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	3 痘そう	-	-	-	-
	4 南米出血熱	-	-	-	-
	5 ベスト	-	-	-	-
	6 マールブルグ病	-	-	-	-
	7 ラッサ熱	-	-	-	-
二類	8 急性灰白髄炎	-	-	-	-
	9 結核	1	31	1,241	4,449
	10 ジフテリア	-	-	-	-
	11 重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-
	12 中東呼吸器症候群	-	-	-	-
	13 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-
	14 鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-
三類	15 コレラ	-	-	-	-
	16 細菌性赤痢	-	-	1	10
	17 腸管出血性大腸菌感染症	-	-	87	272
	18 腸チフス	-	-	3	3
	19 パラチフス	-	-	-	-
四類	20 E型肝炎	-	-	38	146
	21 ウエストナイル熱	-	-	-	-
	22 A型肝炎	-	-	5	23
	23 エキノコックス症	-	-	3	6
	24 黄熱	-	-	-	-
	25 オウム病	-	-	1	3
	26 オムスク出血熱	-	-	-	-
	27 回帰熱	-	-	3	5
	28 キャサヌル森林病	-	-	-	-
	29 Q熱	-	-	-	-
	30 狂犬病	-	-	-	-
	31 コクシジオイデス症	-	-	-	-
	32 サル痘	-	-	-	-
	33 ジカウイルス感染症	-	-	-	-
	34 重症熱性血小板減少症候群	-	-	9	17
	35 腎症候性出血熱	-	-	-	-
	36 西部ウマ脳炎	-	-	-	-
	37 ダニ媒介脳炎	-	-	-	-
	38 炭疽	-	-	-	-
	39 チクングニア熱	-	-	-	-
	40 つつが虫病	-	-	9	53
	41 デング熱	-	-	3	6
	42 東部ウマ脳炎	-	-	-	-
	43 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)	-	-	-	-
	44 ニバウウイルス感染症	-	-	-	-
	45 日本紅斑熱	-	-	15	20
	46 日本脳炎	-	1	-	1
	47 ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-
	48 Bウイルス病	-	-	-	-
	49 鼻疽	-	-	-	-
	50 ブルセラ症	-	-	-	-
	51 ペネズエラウマ脳炎	-	-	-	-
	52 ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-
	53 発しんチフス	-	-	-	-
	54 ボツリヌス症	-	-	-	1
	55 マラリア	-	-	3	5
	56 野兎病	-	-	-	-
	57 ライム病	-	-	-	2
	58 リッサウイルス感染症	-	-	-	-
	59 リフトバレー熱	-	-	-	-
	60 類鼻疽	-	-	-	-
	61 レジオネラ症	3	8	71	332
	62 レプトスピラ症	-	-	-	1
	63 ロッキー山紅斑熱	-	-	-	-
五類	64 アメーバ赤痢	-	-	34	150
	65 ウイルス性肝炎	1	1	16	61
	66 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3	5	117	459
	67 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	-	1	4
	68 急性脳炎	-	2	21	79
	69 クリプトスポリジウム症	-	-	1	1
	70 クロイツフェルト・ヤコブ病	-	1	7	54
	71 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	2	53	243
	72 後天性免疫不全症候群	-	2	63	265
	73 ジアルジア症	-	-	1	9
	74 侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	-	19	62
	75 侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	1	2
	76 侵襲性肺炎球菌感染症	1	1	108	384
	77 水痘(入院例に限る。)	1	4	25	86
	78 先天性風しん症候群	-	-	-	-
	79 梅毒	32	87	816	3,213
	80 播種性クリプトコックス症	-	-	7	45
	81 破傷風	-	3	5	18
	82 バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-
	83 バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	4	17	53
	84 百日咳	-	3	34	180
	85 風しん	-	-	1	1
	86 麻しん	-	-	-	1
	87 薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-	1
新型インフル	88 新型コロナウイルス感染症 ※	13,035	67,217	1,197,705	7,885,409

※全国データは、厚生労働省HPから引用(空港検疫及びチャーター便帰国者を除く)。広島市、全国の累積は2020年からの合計。